

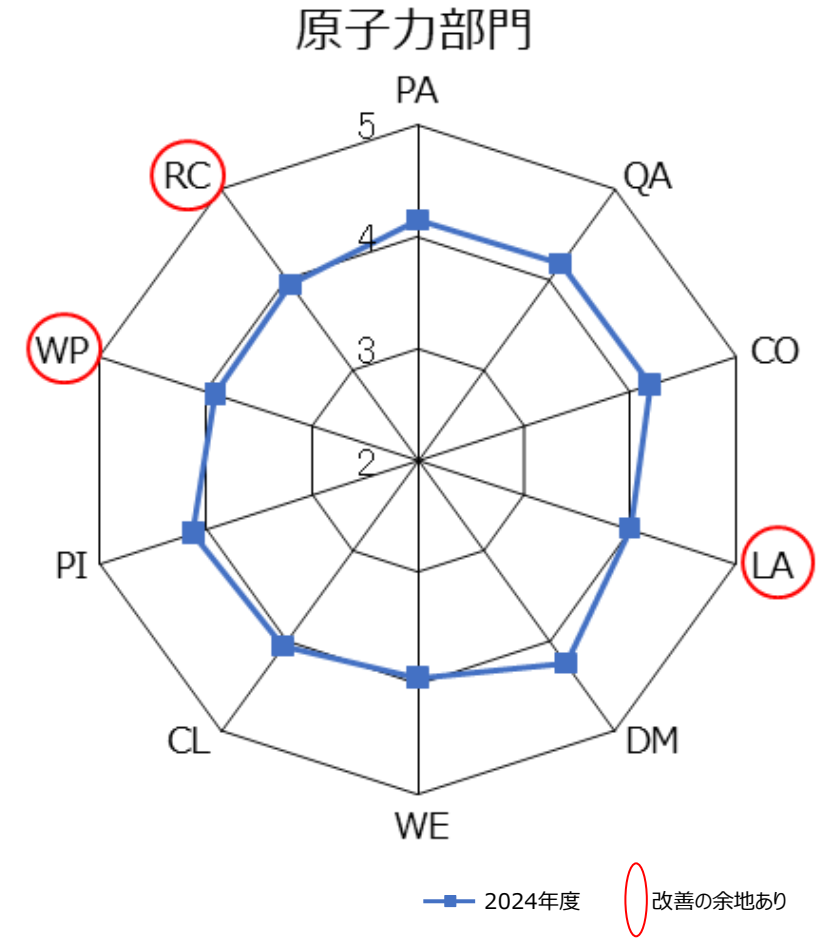
2024年度原子力部門安全文化評価の結果について

1

✓ 2024年度の原子力部門における安全文化評価は、全体として「概ね良好」な状態が維持されています。

2024年度 原子力部門安全文化評価 総評

- ✓ 特に「安全に関する責任（PA）」や「問いかける姿勢（QA）」は比較的高評価を示しており、個人が主体的に安全確保へ関与する姿勢や品質を重視する文化は組織の強みとなっています。
- ✓ 「コミュニケーション（CO）」や「意思決定（DM）」「尊重しあう職場環境（WE）」も一定の評価を維持しており、安全文化を支える基盤は整っていると考えています。
- ✓ 一方で、「リーダーシップ（LA）」「作業プロセス（WP）」「問題提起できる環境（RC）」については、アンケートで若干の劣化傾向が確認されており、問題を表面化させにくい雰囲気が背景にあると考えています。
- ✓ 総じて、原子力部門の安全文化は「安全に関する責任（PA）」を基盤に強みを持ちながらも、リーダーシップ（LA）の発揮、作業プロセス（WP）の改善、問題提起できる環境（RC）の整備が今後の重点課題です。現場の参画意識を一層活かしつつ、経営層と管理層が率先して責任を果たし、心理的安全性を確保することが、さらなる安全文化の成熟に不可欠であると考えています。



【評価の目的】

原子力事業運営における安全最優先の安全文化（組織風土）を継続的に維持、改善するために、安全文化の劣化の兆候、あるいは組織や人の気がかり事項を早期に把握し、経営層に意見具申することで大きな問題点を未然に防止する。

【評価の対象】

プラント安全、労働安全、社会の信頼を維持、改善するための美浜発電所3号機事故再発防止対策をはじめとした保安活動やC S R活動などを含むあらゆる活動とする。

【評価の方法】

a. 3つの切り口による評価

I 組織・人の意識、行動

安全文化の3本柱の観点から、具体的な評価の視点（10項目）を設定して評価を実施。

II 安全の結果（原子力安全、労働安全、社会の信頼）

トラブル傾向分析等から評価を実施。I における問題の有無等を抽出。

III 外部の評価（立地地域、原子力安全検証委員会）

社会の受け止めから評価を実施。I における問題の有無等を抽出。

b. 評価に活用する情報

評価にあたっては I の評価の視点に基づく代表的な指標や参考情報を設定し、それらをインプット情報として、II のトラブル等の分析結果、III の言語情報などを含めて総合評価を実施。

【安全文化評価の枠組み】

